

薄型プラグイン方式 絶縁2チャンネル型 無電源アイソレータ

MS3764

取扱説明書

文書番号：MQDDK-110801-25

Rev.1.3



この度は、MTT 製品をご採用いただき、誠に有難うございます。
現品をお受け取りになりましたら、まず、本機の仕様がご注文通りのものであることを、現品の表示ラベルの記載でご確認下さい。万一、仕様の誤りや、輸送上、その他の原因による損傷などが発見されました場合には、速やかに、弊社営業所またはお買い求め先にご連絡下さいますようお願い申し上げます。
弊社製品はすべて、厳格な品質管理基準に基づいて製造されておりますので、安心の上、お使いいただけるものと存じます。

1. はじめに

本機を正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」をよくお読みください。またご使用後は本書を必ず保管し、必要に応じて参照してください。製品仕様書も合わせてご参照ください。

2. 安全にご使用いただくために

本機の使用にあたっては下記の安全注意事項を必ずお守りください。以下の注意に反した使用により生じた傷害については、当社は責任と保証を負いかねます。

 警告	この表示の記載内容を守らないと、火災・感電などにより人が死亡または重傷を負う可能性があります。
 注意	この表示の記載内容を守らないと、感電・その他の事故により人が障害を負ったり物的損害を招く可能性があります。

警告

本機への配線は端子台に対して行い、配線・離線は必ず無通電状態であることを確認して行ってください。これを守らないと感電する恐れがあります。

本機を分解、改造しないでください。これを守らないと、火災、感電のおそれがあります。

万一、異物（金属片、水、液体）が本機の内部に入った場合は、すぐに電源供給を停止し、販売店または当社までご連絡ください。

運送機器、通信機器、発電制御機器、医療機器など高度の信頼性・安全性が求められる用途で使用する場合は、組込まれるシステム装置全般として、誤動作防止設計などの安全設計を施す必要があります。

可燃性ガスや粉塵のあるところでは使用しないでください。これを守らないと爆発のおそれがあります。

設置した変換器の付近、及び下方に燃えるものを置かないでください。

注意

本機は仕様に記載された使用条件の範囲内で使用してください。これを守らないと、火災や故障の原因となることがあります。

温度変化が急激で結露するような場所での使用はお避けください。これを守らないと故障のおそれがあります。

腐食性ガスのある場所や薬品が付着する場所での使用および保管は避けてください。

本体の挿入および抜取りは、通電状態でも行えますが極力行わないでください。

取付や結線等は、安全のため、制御盤組立技術者、計装工事、電気工事などの専門の技術を有する人が行ってください。

3. ご使用上の注意

機器の備えているすべての性能を満足させるために下記の注意事項をお守りください。下記の注意事項に反したご使用方法をされた場合、機器の性能が損なわれる可能性があります。

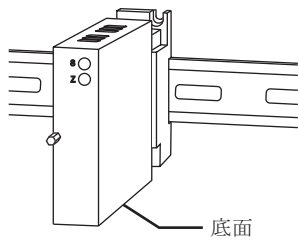
取扱について

精密機器のため、落としたり放り投げたりしないでください。電子部品を使用していますので、水をかけたり・水に浸けたり・結露する場所に設置しないでください。直射日光の当たる場所や、高温、粉塵、湿気もしくは振動の多いところで保管及び設置は避けてください。

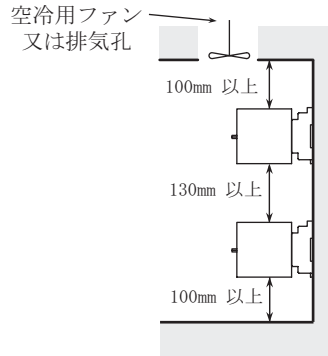
設置について

屋内に設置してください。
「8. 取り付け、取り外し」を参照し DIN レール取り付け、又は壁取り付けを行ってください。
使用温度範囲：-5～55、使用湿度範囲：5～90%RH、高度：2000m 以下でご使用ください。
通風孔を塞がないでください。
変換器の取り付け姿勢は下図（代表例）の通り、製品表示が正常に見え、底面が下にくる姿勢で取り付けてください。
放熱を考慮して変換器の上部、下部に十分なスペース（目安として 100mm 以上）を取ってください。
また、変換器を多段積みで使用する場合についてもスペース（目安として 130mm 以上）を開けてください。
スペースが取れない場合、仕切り板を入れる等の熱対策を行ってください。排気孔、空冷ファンなどを取り付け、空気の流通を良くしてください。前面、及び側面は作業が困難とならないよう十分なスペースをとってください。

取付姿勢



設置例



配線について

配線は「6.端子接続図」を参照し、端子台に対して行ってください。ネジ締め付けトルク:0.8~1[N・m] 推奨値
配線用導線には、可とう性に優れているより線を使用してください。

導体公称断面積：推奨 0.5~2.0mm²

端子台に接続する導体の末端には、絶縁被覆付の圧着端子を使用してください。絶縁被覆がないと、短絡や感電するおそれがあります。圧着端子の厚さは0.7~1.0mmを推奨いたします。

1つの端子ネジに対して接続する圧着端子は2つを限度としてください。また、2つ接続する場合の圧着端子厚は0.8mm以下にしてください。

性能を満足させるために

モーター、大型トランスなどの磁界や電磁波が発生する機器の近傍に、本機の信号線を配線することは避けてください。止むを得ない場合は、シールド線を使用する等のノイズ対策を行ってください。

本機の使用に先立って、約30分間のウォーミングアップを行ってください。

本機に接続するセンサ、及び機器は本機の入出力インピーダンスを考慮したものをご使用ください。(製品仕様につきましては「4.概要」、または仕様書を参照してください。仕様書は当社ホームページにてダウンロード可能です。

URL: <http://www.mtt.co.jp>

4. 概要

MS3764は、供給電源なしで入力信号4~20mAを絶縁された計装統一信号に変換して出力します。

特徴

本体とソケットの接点部に0.2μm金メッキ処理をし、高い信頼性と耐久性を実現

入力-出力間、チャンネル間AC1,500Vの高耐電圧

保守性に優れたプラグイン方式

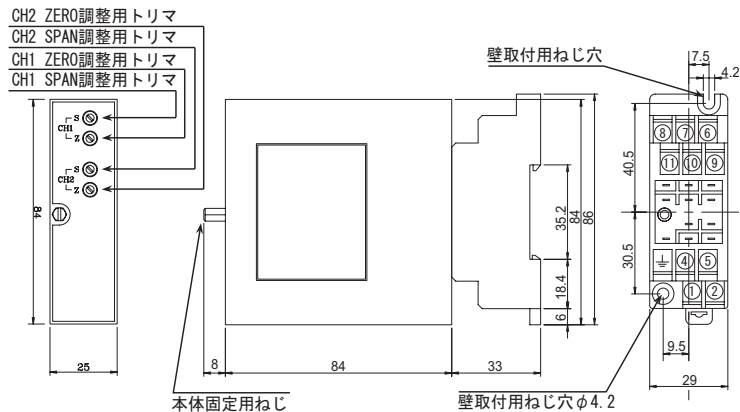
作業性を向上させた、取付ネジ脱落防止機構の標準装備

プリント基板の防湿コーティングの標準化

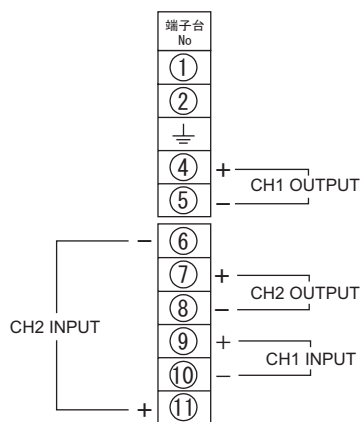
製品仕様

入力信号	4~20mADC
入力抵抗	電圧出力時:約250 (20mADC入力時) 電流出力時:約230 +負荷抵抗(20mADC入力時)
入力許容電流	30mA DC max.
最大出力負荷	電圧出力:50k 以上 電流出力:350 以下(許容負荷抵抗50~350)
ゼロ点調整範囲	電圧出力時:スパンの約±2.5% 電流出力時:スパンの約±0.5% (変換器前面トリマにより可変)
スパン調整範囲	電圧出力時:スパンの約±2.5% 電流出力時:スパンの約±1.5% (変換器前面トリマにより可変)
変換精度	スパンの±0.15%以内 (25 ±5 にて)
温度特性	10 の変化に対してスパンの±0.2%以内
応答速度	15ms 以下 (0~90%) @100%ステップ入力
負荷変動による出力変動	0.01%/ (50~150) 0.005%/ (150~350) 出荷時は250 にて調整
絶縁抵抗	100M 以上 (@500V DC) 入力-出力間、チャンネル間
耐電圧	入力-出力間:1500V AC 遮断電流0.5mA 1分間 チャンネル間:1500V AC 遮断電流0.5mA 1分間
S W C 対策	ANSI/IEEE C37.90.1-1989 に準拠
保存温度	-10~60

5. 外形寸法・端子番号図

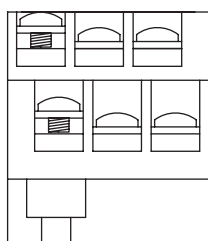


6. 端子接続図

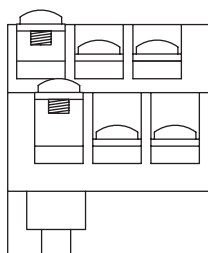
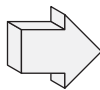


7. 配線の方法

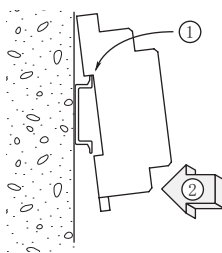
配線を行う際は、端子台のネジを下図のようにしてから行ってください。



端子台のネジを弛めます。

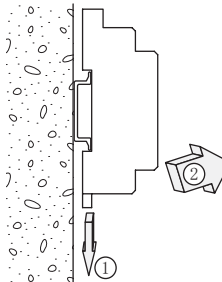


ワッシャーの下にドライバの先を入れ、上に押し上げてください。

8. 取り付け、取り外し
DIN レールへの取り付け

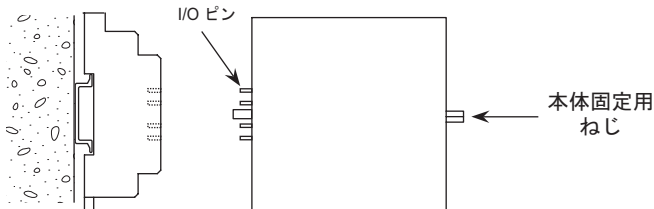
ソケット基板についているレールホルダを下にして、その反対方向にあるツメをレールに引っ掛けてからソケットを図のように嵌め込み、レールホルダをかけて固定します。

DIN レールからの取り外し



ソケット下部のレールホルダの溝にマイナスドライバ等を押込み、それを下方に押しながらソケットの下部を手前に引きます。

本体の取り付け、取り外し



取り付け

本体の上下方向を確認して、各入出力ピンと対応するソケットの位置とを合わせ、本体をまっすぐ押し込んでください。
本体固定用ねじを締め付けてください。

本体取り外し

本体固定用ねじを弛めてください。
入出力ピンを傷つけないように、本体をまっすぐ引き抜いてください。

9. 校正の方法

本機は、予め弊社工場で精密に調整されておりますのであらかじめ校正を行う必要はありません。校正が必要な場合はなるべく弊社の再校正サービスをお受けください。やむを得ずお客様で校正を行う場合、下記を参照して行ってください。

9-1. 校正方法

「5.外形寸法・端子番号図」を参照し対応する端子ネジを確認してください。

チャンネル毎に校正が必要です。校正するチャンネルに対応するトリマを回転させてください。

接続は各機種の端子台に対して行います。

入力信号 20mA を投入し、最低 30 分のウォーミング・アップを行ってください。

本製品の精度に対し、十分な精度を有する測定機器を使用してください。

9-2. 校正手順

下記接続図を参照し、校正するチャンネルに対応する端子に各機器を接続してください。

入力仕様を本体前面ラベルにて確認し、入力 0%相当の信号を入力してください。

の状態を本体前面にあるゼロ・トリマをゆっくりと回転させ、出力が 0%となるように調整してください。

と同様に入力仕様を確認し、入力 100%相当の信号を入力してください。

の状態を本体正面にあるスパン・トリマをゆっくりと回転させ、出力が 100%となるように調整してください。

上記 ~ を数回繰り返す、ゼロ、スパンとも完全に調整してください。

入力を出力信号 25%, 50%, 75%に相当する信号に順次設定し、記録して直線性の確認を行ってください。

10. 保守点検

2年に一度位の程度で特性や設定に異常がないか確認してください。

11. 保証期間と保証範囲

〔保証期間〕

納入品の保証期間は、ご注文主のご指定場所に納入後 7 年といたします。

〔製品保証について〕

1) 製品の保証は、部品と構造上及び性能が当社の製品仕様に適合していることを、保証いたします。

2) 適正な品質マネジメントシステムと品質管理のもとで、製品を出荷しておりますが当社の製品保証は、製品の動作、出力や表示が中断されないことや、エラーが皆無であることを保証するものではありません。

当社の保証は、製品の動作、出力又は表示に中断やエラーが発生した場合の、お客様の機器、及び第三者の機器への傷害、パフォーマンス（お客様の機器などへの安全、性能など）に関連した傷害に対する保証や損害に対しては一切応じかねます。

3) 保証期間中、取扱説明書に順じ当社が不具合の認められた製品を保証期間中に手直し又は交換を致します。

4) 当社の保証は、以下に起因する不適合には適用されません。

不適切、不完全な保守、校正による場合
故障の原因が納入品以外の事由による場合
弊社以外の改造、または修理による場合
その他、天災、災害などで当社の責にあらざる場合

